微笑

第５１号
令和２年１月５日
発行者
綾瀬市身体障害者
福祉協会

明けまして おめでとうございます

令和二年・二〇二〇年の始まりです。今年の大きなイベントは東京オリンピック・パラリンピックでしょう。東京都では準備のためにバリアフリー・ユニバーサルデザインに勤め、駅や歩道、乗り物などに配慮して改装や設置を進めています。この様に障害者に配慮した改装は、誰にも優しい街づくりに大いに役立つものです。これが一過性でなく東京のみならず日本全国で常に心配りが出来、多くの人が障害者を優しく見守る街にして欲しいものです。

神奈川県でも「神奈川県みんなのバリアフリー街づくり条例」があり、障害者等が安心して生活し、自由に移動し、及び社会に参加することができるバリアフリーの街づくりに関し、県、事業者、及び県民の責務、県の基本方針並びに施設等が安全かつ快適に利用できるよう整備を進めるための整備基準の遵守等の必要事項を定めています。

昔に比べれば　市役所などの公共の施設、ショッピングセンターなどの大きな施設はとても使いやすくなっていますが、車いすマークの駐車場には普通の人が車を止めているなど、とても優しい状況ではありません。日本中の人が優しい心を持って私達に接してくれる様になれば明るい日本が見えてくるのですが。

明るい夢が見られる世界に。
今年も良い年になりますように！

西川和朗

＝　＝　＝　＝　＝

◎肢体部会「バス旅行と歩行訓練」

西山和夫

10月9日（水）肢体部会として楽しみにしていた箱根芦ノ湖の海賊船遊覧と歩行訓練を兼ねたバス旅行に行ってきました。ボランティアさんを含めて総勢十二名が参加して9時には市役所を出発。小田原・厚木道路を経由して10時40分には箱根町港に到着です。駐車場に着くともう目の前には芦ノ湖が広がっており、そしてこれから乗る海賊船が我々を待っていました。

天候にも恵まれて湖面には箱根神社の赤い鳥居が鮮やかに映っていましたが、期待していた富士山は厚い雲がかかっており見られませんでした。11時20分に乗船、比較的混み合っていましたが、乗客の7割くらいは海外からのお客様でちょっとした海外旅行の気分です。

船内はバリアフリーでエレベータもありますが、車イスで乗るには少し狭いように感じました。それでも上階の展望デッキに上がると心地よい風もあって、本当に気持ちの良い遊覧でした。

海賊船は、箱根町港ー元箱根港から桃源台を経ておよそ70分で箱根町港に戻ります。下船した後はすぐ目の前にある茶屋本陣畔屋で各自で食事を楽しみ、孫呉は自由時間としての恩賜箱根公園までの歩行訓練です。途中には箱根関所跡や箱根駅伝ミュージアム、寄木細工からくり博物館などもあり、各自楽しみながら恩賜公園まで来て下さいとお願いしましたが、自由時間が1時間ほどしかなかった事もあり、皆さん大分バテバテに疲れて恩賜公園に着いてようです。

その後は恩賜公園で待っていたバスに乗り、近くの箱根神社で参拝する予定でしたが、又歩いてお参りする元気もなくなっておりバスに乗ったままでの参拝になりました。バスの窓を開けて「皆さん神社の霊気を取り込んで下さい」と言いましたが、後で考えたら「取り込むのは霊気ではなくて運気だった」と思い直した次第です。

帰りは運転手さんのアドバイスもあり、途中で“鈴廣かまぼこの里”に寄ってトイレ休憩とお土産を買う時間を取ってもらい、無事に市役所に戻りました。

バス旅行と歩行訓練をサポートして頂いた障がい福祉課の土橋さん、そして運転手の管財契約課の山田さんの協力で本当に楽しい一日でした。

有難うございました。

茶屋本陣畔屋

◎福祉レクリエーション大会

11月9日（土）IIMUROGLASS綾瀬市民スポーツセンターで、綾瀬市社会福祉協議会主催のレクリエーション大会が行われました。今年もボランティアには、市内の高等学校から多くの生徒さんが手伝いに来てくれました。社協会長、副市長など来賓の挨拶後、ラジオ体操（普段動かさない筋肉を動かして少々痛みが・・）。参加者の多くは、障害当事者団体、障害者地域作業所、などで、身障協会からは十九名の参加

です競技はいつも通り、誰でも出来るもので、フープ投げ、ぬいぐるみ合わせ、大玉転がし等

昼食時には、来年のパラリンピックでも行われる正式種目「ボッチャ」の実演が行われました。

午後の競技も大勢で行われ、皆さん参加賞をもらいながら頑張りました。今年も無事に会員の元気な顔が見られ安心しました。又、来年も元気にお会いできることを期待してお別れしました。

【新聞記事】

東京新聞　十一月十三日
ＵＤタクシー、３割が乗車拒否

障害者団体「ＤＰＩ日本会議」は十二日、車いすのまま乗車できるユニバーサルデザイン（ＵＤ）タクシーの車いす利用者への対応を十月に全国で調べた結果、乗車拒否が三割近くあったとの集計結果を公表した。同団体は結果を基に十四日、国土交通省に改善を要望する。

タクシーに搭載された乗降用のスロープ設置など運転手への研修実施を条件に、国はＵＤタクシー導入のための補助金を事業者に出しているが、乗車を断った運転手の中には「車いすの乗降方法が分からない」と回答する人もおり、車いす利用者への対応が現場に十分根付いていない実態が浮き彫りとなった。

調査は十月三十日に二十一都道府県で実施。車いす利用者延べ百二十人が参加し、流しや乗り場でＵＤタクシーへの乗車を試みたほか、事前に電話予約で配車してもらえるかどうかも調べた。拒否されたケースの内訳は流しが五人、乗り場九人、電話予約十四人、配車アプリなどが四人の計三十二人で、参加者の２７％に上った。

東京以外での拒否率が特に高く、団体の佐藤聡事務局長は「都心部では対応が良くなっているが、地方でも車いすユーザーが利用できるよう徹底してほしい」と話した。

☆ＵＤタクシー＞　高齢者や子ども、障害者も利用しやすいよう設計されたユニバーサルデザインのタクシー。ＵＤは英語のＵｎｉｖｅｒｓａｌ　Ｄｅｓｉｇｎの頭文字。運転手が車内に収納されたスロープを設置することで車いすのままでも乗り込める。事前予約が必要な福祉タクシーと違い、流し営業で気軽に使えるのが特徴。国は東京五輪・パラリンピックを見据え、２０２０年度までにＵＤタクシーと福祉タクシー計４万４０００台を普及するとの目標を掲げる。

・・・・・・・・・

タウンニュース［綾瀬版］
十一月十五日号

「国会に希望当事者の声」

参議院で五日と七日に、いずれもれいわ新撰組で重度障害者の木村英子議員（五十四）と、難病の筋萎縮性側索硬化症（ＡＬＳ）患者の舩後靖彦議員（六十二）がそれぞれが所属する委員会で初の国会質問に臨んだ。介助が必要な議員が介助を受けながら国会で質疑したこととそれに対応した国会について、市内在住の当事者二人に話を聞いた。

取材に応じてくれた西川さん（手前）と金子さん（奥）

寺尾釜田に住む西川和朗さん（七十）は二十八歳で交通事故に遭い、寺尾本町に住む金子寿さん（五十九）は体操選手だった十七歳の時に鉄棒から落ちて介助が必要な一級障害者になった。いずれも一九七八年一月の事故だった。頸髄損傷で車椅子での生活を余儀なくされた二人は「国会で起こっていることが県や市区町村までおりてきてほしい」と期待を寄せる。

二人は綾瀬市身体障害者福祉協会の会長と副会長でもある。「一二八人がピーク。現在は一九六五年の設立当時と同じ八十人まで会員が減った」障害者は減らないがインターネットの普及や福祉サービスの向上で「会員であることのメリットが薄まった」と分析している。

市役所や議会棟、福祉プラザが建設される時は自ら市役所に働きかけバリアフリー化にこぎつけたが「知らないうちに設計された」建物には障害者への対応不備が目立つ。それでも「障害のない市民の立場にもなって発言するよう心掛けている」と胸の内を明かす。

二人は異口同音に「社会には目に見えるバリアフリーと心のバリアフリーがある。今回のことが障害者の日常に関心を寄せてもらうきっかけになってほしい」とも話してくれた。

【編集後記】

新しい年を迎えるための準備をしながらの編集になりました。
令和２年に皆さんにお目にかかるのは、二月九日交流会です。
元気に新しい年をお迎え下さい。
西川和朗